

## 鎌響の始まりと井戸を掘った人々-そして将来への思い

菅井直介 Vn

鎌響 50 周年にあたり、創立当時のこと、鎌響をめぐる人々などについて後世に伝えることは私どもの務めであると考え、将来への思いをこめて小文を記してみました。

### 鎌倉交響楽団初代指揮者 東清蔵先生

鎌倉に在住していた音楽家たちを主体として第 1 次鎌倉交響楽団が昭和 21 年に結成されましたが、社会が落ち着くにつれて次第に団員が東京に活動の場を求めて移り昭和 26 年ころにはその活動を終えています。このあと鎌倉にとどまり、第 2 次鎌倉交響楽団すなわち現在の鎌響を再興させた中心人物の一人が初代指揮者東清蔵先生です。鎌響創設期からの団員であるコントラバスの大内達郎さん、ヴァイオリンの宇多綾子さんなどは東先生から直接、その薫陶を受けた方々です。



東清蔵先生

大内達郎さん CB の鎌倉市立御成中学校 1954 年卒業アルバムから

東先生が海軍軍楽隊のご出身であることは大内さん宇多さんから伺い、昭和天皇の皇太子時代ご訪欧時の旗艦「香取」の軍楽隊で演奏されたことも聞いていましたが、ご経歴についての手掛かりがなかったのです。出版されている海軍軍楽隊の歴史（1）にも「明治45年6月1日、山田金次、東清蔵ら45名、横須賀海兵団入団。五等軍楽生。」と書かれているのみです。しかし、この年の入団生45名のうち名前が書かれているのは二名で、その一人である東先生はさぞ優れた人であったに違いないと思われました。

この年7月30日には明治天皇が崩御し、元号が大正と改元されますが、この隊史には主として昭和のことが詳しく書かれており、東先生が軍楽隊で最も活躍されたと推測される時代についてはあまり書かれていないのです。幸い大内さんがよくご存知の、東先生のご子息で鎌響創設時の団員でもある東博之さんが詳細な履歴を提供してくださいました。

先生は明治28年、1895年12月25日富山県で出生、1975年1月14日鎌倉市で亡くなられています。出生時の戸籍への届出は1896年1月25日とされています。旧暦の年齢だと1月1日で年齢が2歳になってしまうために一カ月遅れて届け出られたそうです。

1902年 小学校入学、全学年主席でした。明治45年、1912年には17歳で海軍横須賀海兵団に入隊されますが、年齢が足らず軍楽兵となり、1914年、第一次世界大戦では、当時ドイツ領だった青島攻撃にも参加されます。このときのドイツ人捕虜たちが四国の坂東捕虜収容所でベートーヴェンの第九交響曲を演奏することになります。

1919年に24歳で教官となった先生は、1921年大正10年には後の昭和天皇となる皇太子裕仁殿下の訪欧に際して、御召艦「香取」随伴艦「鹿島」のうち皇太子乗艦の香取に軍楽隊員として選抜され乗船しました。訪欧艦はエジプト、イギリス、ベルギー、オランダ、イタリアを回り、二艦それぞれに乗り込んだ軍楽隊は各地で演奏を行っています（1，2）。

1925年には兵曹長となり、1931年には東京音楽学校（現在の東京芸術大学音楽学部）の特待生となりました。当時陸海軍の軍楽隊は上野の音楽学校に特待生を送り教育をしていたのです。また第二次世界大戦中には、東京音楽学校の学生であり、後に作曲家となる團伊玖磨、芥川也寸志などが陸軍戸山学校軍楽隊に所属していました。また軍艦行進曲の作曲者であり、1904年から海軍軍楽隊の楽長であった瀬戸口藤吉のころから軍楽隊は弦楽も取り入れており、戦前

のオーケストラには軍楽隊出身のメンバーが多く活躍していました。このように日本の西洋音楽の発展には軍楽隊が大きな貢献をしたのです。

1932年には横須賀海兵団の一員として葉山御用邸で木琴の御前演奏を行い、1933年には軍楽特務少尉で軍楽長となります。1936年には横須賀海兵団の東京派遣所に属し、日本放送協会愛宕山会館でクラリネット独奏を全国放送されました。東京派遣所は海軍軍楽隊が東京での演奏を行うために設けられた施設です。この年に二二六事件が勃発していますが、東先生はこの年に海軍の予備役となり、先生の湘南地方での民間の音楽普及活動が始まります。

昭和12年、1937年には鎌倉市の材木座青年団の吹奏楽指導をされ、1938年には三浦中学吹奏楽講師となり、1939年には吹奏楽連盟の理事に選ばれ、吹奏楽の指導者として華々しい活躍をされています。1941年、昭和16年には湘南中学（現在の湘南高校）吹奏楽講師とされますが、この年12月8日の真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まりました。

戦後は1945年に再び材木座青年団吹奏楽団の指導を始められ、さらに1951年には鎌倉市立御成中学校、1952年には同市立第一中学校、1953年には神奈川県立小田原高校、1954年には神奈川大学などの講師として吹奏楽の指導に当たられました。鎌響創立以来の現役、大内さんは御成中学で東先生の指導を受けています。また1955年には栄光学園講師として吹奏楽を指導され、平塚宗善小学校鼓笛隊の指導、三崎徳風幼稚園音楽教室ヴァイオリン指導にも当たられています。

栄光学園で吹奏楽の指導を受けた横須賀市出身の高橋三雄氏（ビッグバンド・ジャズ・オーケストラ、コンサートマスター、ニューオルリンズ市名誉市民）は次のように記しています。（3）

「私の人生の中で私を真剣に叱ってくれた人が3人いる。小学校の担任の水谷晴子先生、中学のブラスバンドの東清蔵先生、そしてサラリーマンになってからの創業社長・堀禄助氏である。3人とも既に鬼籍に入られているが、彼らにこっぴどく叱られた時は心底憎んだものである。しかし、後で考えると彼らから得たものは大きく、まさに恩人と言える。楽器面でしごかれたのが東清蔵先生である。先生は中学校にブラスバンドを創設する時に専任のコーチとして就任、全くの初心者集団を1年足らずで発表会で演奏するまでに成長させる手腕を発揮された。海軍軍楽隊出身で指導は厳しかった。彼の専門がクラリネットだったこともあり、特にクラリネットパートには連日雷の連続、毎回今度こそ

退部しようと仲間と「退部届」を懐に話し合っていたものである。当時は部員の数より楽器の数が少ないために放課後の楽器争奪戦も熾烈。皆叱られないために先を争って練習したものである。未だに「普段は優しい方で」などという美辞麗句は浮かんでこない。しかし、こうして鍛えられたクラリネット仲間が未だに楽器を続けているという事からすると、あの厳しさが上達の原点だったのは間違いない。」



高橋三雄 氏 （高橋氏のブログから）

その後も先生の音楽への情熱、とくに若者の音楽教育への情熱は衰えず 1957 年には朝日ジュニアオーケストラ鎌倉教室指導、1958 年には神奈川県立希望が丘高校講師につかれました。

先生の最後のお仕事は鎌倉交響楽団の設立でした。団の運営に大きな役割を果たされた福井孝一、伊澤龍作、服部甚蔵さんらと共に、設立趣意書を作成され、鎌倉市議会および有力者に働きかけられ、市より 100 万円の補助を得て、オーボエ、ファゴット、楽譜などを購入できるように取り図って下さったのです。そして鎌倉交響楽団第 1 回の演奏会が東清蔵先生と中田豊太郎氏の指揮のもと、鎌倉市中央公民館で 1963 年 6 月 15 日に開かれました。

指揮 中田豊太郎

ベートーヴェン 「エグモント」より序曲

指揮 東清蔵

ハイドン ピアノ協奏曲 ニ長調

ピアノ独奏 朽木みどり

シューベルト 交響曲 第7番 (旧第8番) ロ短調「未完成」

また第二回は同じく先生と中田氏の指揮で11月17日行われました。

指揮 東清蔵

ベートーヴェン 交響曲 第6番 ヘ長調「田園」

モーツァルト ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447

ホルン独奏 リチャード A ブロット

指揮 中田豊太郎

ヨハンシュトラウス (2世) 皇帝円舞曲 作品437

指揮 東清蔵

リスト ハンガリー狂詩曲 第2番 嬰ハ短調

なお、この演奏会でホルン独奏を行ったのは横須賀米国海軍軍楽隊の隊員でしたが、奇しくも両国軍楽隊の関係者が平和の中に交流したわけです。

先生は、この後、翌年6月には脳出血の発作に襲われます。したがって鎌倉交響楽団の創設は先生のお元気な時の最後の事業になりました。1975年1月14日には再度の脳出血で永眠されますが、神奈川県は神奈川県文化功労章を贈って先生の偉業をたたえました。

1975年5月25日、鎌倉交響楽団第25回定期演奏会は、鎌響生みの親、育ての親、東清蔵氏追悼として鎌倉市中央公民館で行われ、吉水洋氏の指揮で

ウェーバー 歌劇「魔弾の射手」序曲

モーツァルト ピアノ協奏曲21番ハ長調 ピアノ 間瀬すみ

ベートーヴェン 交響曲第3番「英雄」変ホ長調 が演奏されました。とくに英雄の第二楽章の葬送行進曲は東先生を送別する演奏となりました。

このように、東先生は海軍軍楽隊で活躍されてから、その後半生をとくに湘南地方の音楽の向上のために捧げられました。先生の教えで、音楽の道を歩むことになった人、またアマチュアとして音楽を生きる支えとしている人、それぞれが先生の遺志を大切にしています。鎌響の誕生には東先生のご努力による

ことが多く、また黎明期にこのような師を得た幸いに感謝して50周年に当たり、先生の音楽に捧げられた一生を記録して顕彰したいと思います。

#### 参考文献

- 1) 橋本勝見 監修  
海軍軍楽隊 日本洋楽史の原典 楽水会 編 昭和59年 図書刊行会
- 2) 羽多野 勝  
裕仁皇太子ヨーロッパ外遊記 1998 草思社
- 3) 高橋三雄  
叱られて Yokosuka on My Mind -73- 朝日アベニュー2月号

### 鎌響創設の功労者 福井孝一さん

鎌響の創設期からの団員である大内さん宇多さんから創設時のとびぬけた功労者の一人は福井孝一さんであることを伺い、お彼岸にはお参りを欠かさなかったことも大内さんから聞いていました。宇多さんによると、福井さんは鎌響ではご自身で楽器を演奏されることはなかったのですが、演奏会の日にはいつも正装されて入口に立ち、お客様に挨拶され、またご自身で多数の入場券を購入されて恵まれない子供たちを招待されていたそうです。おそらく鎌響が現在、時々練習場の一つとしてお世話になっている鎌倉児童ホームの子供たちではないかと推察されます。

しかし福井さんについては私を含めて、多くの団員は何も知らなかったのです。今回の50周年事業に関して大内さんを通して、福井さんのご家族がいくつかの資料を提供して下さいましたのでこれらを基にしてそのご生涯を振り返ってみることにします。



1971年頃の福井孝一さん (2) から

福井さんは明治30年(1897年)2月4日、三井合名筆頭常務理事、福井菊三郎、夏の長男として現在の六本木6丁目に出生。母方の祖父、江原素六は麻布学園創立者、貴族院議員でクリスチャン。母夏も敬虔なクリスチャンであり、子供のころから自然に音楽に親しむこととなります。とくに麻布学園の米国人音楽教師ガントレット氏の夫人は山田耕作の姉であり、福井さんは生涯山田耕作と交流されることになりました。お母さんは100歳近くまで鎌倉の福井さん宅で過ごされています。(1)

大正4年(1915年)東京府立第一中学校(現日比谷高校)卒業。抜群の運動神経で野球部でも活躍し、神戸高等商業学校(現在の神戸大学経済学部)に進まれ在学中は陸上部でも活躍されます。(2)

大正6年(1917年)第3回極東大会(アジア大会の前身)のスプリントとハードルの代表選手となり、120ヤード・ハードル決勝で二位、直後に行われた第5回全国陸上競技大会では200メートル・ハードルで優勝、一時日本記録を保持されていました。

大正10年(1921年)東京高等商業学校専攻部(現一橋大学)卒業。在学中は陸上部で活躍の傍ら、音楽部(フルート、コーラス)に参加。卒業後は三井物産に入社されますが、間もなく東京の歩兵第3連隊に一年志願兵(その後の幹部候補生)として入営されました。

大正後期には5年間三井物産ニューヨーク支店に勤務、この間高名な先生についてチェロを習われたそうです。そして当時のニューヨークの音楽界は後に鎌倉での福井さんの音楽普及活動に影響を与えたと推察されます。

1909年には当時のニューヨーク・フィルハーモニックが音楽家の経営から裕福なニュー Yorker たちによる経営に移りグスタフ・マーラーを指揮者に呼び、ニューイングランド地方の演奏旅行も行っています。マーラーはここでオペラの責任をはじめて負わないでシンフォニーを追求することになりますが1911年、彼の突然の死によりストランスキーが後任となります。また1921年にはフィルハーモニックはニューヨークのナショナル交響楽団と統合し、指揮者にメンゲルベルグがオランダから迎えられました。メンゲルベルグは9年間にわたって指揮を務め、この間ワルター、フルトヴェングラー、ストラヴィンスキー、トスカニーニが約半分のコンサートを客演指揮しています。(3) 福井さんがニューヨークに在勤されたのは丁度このあたりで、再生したフィルハーモニックを中心としたこの地の音楽活動を楽しまれたに違いありません。またこのころフィルハーモニックは米国で最初の低価格の野外演奏会を開いたり、1924年には子供たちのための音楽会を開いたりしています。このような音楽の普及活動を見聞きされたことはおそらく後の福井さんの鎌倉でのご活躍の刺激となったのではないかと想像されます。

帰国された福井さんは青山にアントニン・レーモンド設計による米国風のご自宅を建てられますが、帝国ホテル建築のためにフランク・ロイド・ライトと共に来日したチェコ出身のレーモンドが1921年に設立した米国建築合資会社設計の初期の建物であるこの家のラウンジには山田耕作氏を指導者に迎えて合唱団を創立。これが戦後、三井系の音楽部である三友合唱団（昭和21年創立。全国コンクールで入賞多数。）となり、長年世話役を務められました。若かりし日の小沢征爾氏も指導者のひとりでした。小沢氏は鎌倉の福井さん宅での三友合唱団恒例の夏季水泳大会にも参加しておられたそうです。

次の写真は当時の赤坂青山南町にあったレーモンド設計の福井さん自宅正面と居間ですが、ここで山田耕作氏などと合唱をされていました。(4) 当時の建築雑誌に収載されていた写真です。

設計 米國建築合會社  
 施工 鹿島組 (設計圖2, 3頁)  
 位置 赤坂・青山南町



建築叢報第十五卷第四號第一圖

福井孝一氏邸正面

設計 米國建築合會社  
 施工 鹿島組  
 位置 赤坂・青山南町



建築叢報第十五卷第四號第三圖

福井孝一氏邸居間之食卓

戦時には一時軍務にも服されましたが、除隊後、三井傍系の高速機関工業に出向して軍用トラック月産 200 輦を推進され、三井合名調査役、三井農林取締役となられました。三井退職後、鎌倉での社会活動が始まり、清泉女子大学理事、鎌倉市体協委員、などをつとめられています。

また福井さんは、日本陸上連盟理事として東京オリンピックに役員として参加、鎌倉ヨットクラブ副会長、清泉女子大学理事、麻布学園理事なども務めました。

福井さんの鎌倉でのオーケストラ音楽を通してのご活躍は朝日ジュニアオーケストラの室長として始まります。これは第一次鎌響が昭和 26 年に活動を終えた後の鎌倉でのオーケストラ活動であり、これが現在の鎌響の創設につながっています。昭和 31 年 11 月 18 日には朝日新聞東京本部教室による演奏会が開かれ、昭和 32 年 3 月 17 日には関西交響楽団スタジオで大阪本部教室による演奏会が開かれています。

大内さんなど朝日ジュニアで活躍していた人々を含めて現在の鎌響が創立される時には、当然福井さんが大きな活躍をされることとなります。福井さんを現在の鎌倉交響楽団の委員長（当時は団長をこう呼んだ）とし、伊澤龍作氏、当時鎌倉市役所に勤められていた服部甚蔵氏、初代指揮者の東清蔵氏らの努力により第 1 回の定期演奏会開催にこぎつけられました。その後福井さんは鎌倉市の教育委員に就任を依頼されて、関連団体である鎌響の団長を辞任されるまで初期の鎌響に大きな貢献をされました。

鎌響創設時の発起人に野村光一、小林秀雄、今日出海など当地在住の日本を代表する文化人が名前を連ねているのも福井さんとのつながりもあるのではないかと推察されます。

福井さんの一番楽しいひとときはグレゴリオ聖歌の楽譜をみることであり、「人の集るところに歌あり」という信条を持たれていたそうです。そして鎌倉市郷土芸能保存会にも関係され、光明時に弘法大師以来、伝承される「あやめの踊」や声明、浪速舞の音楽化についても 1 2 人の同志と共に研究されていました。浄土宗光明寺は鎌倉材木座にあり、鎌響が練習に使ったこともあります。



晩年の福井孝一さん 鎌倉 自宅の庭にて (工藤瑞子さん提供)

福井さんは昭和53年(1978)2月16日に昇天されましたが、マーラーが活躍したすぐ後のニューヨークの音楽界をご存知であった福井さんは、今回の鎌響のマーラーの「復活」の演奏を天国で聴かれてうれしく思われたことでしょう。

鎌響はその創設期にこのようなヴィジョンと、音楽への愛を兼ねそなえた方がたを得た幸せを感謝したいと思います。そして現在の鎌響にも福井さんたちの無私の音楽への奉仕の精神が脈々と息づいています。

50周年オープニングのファミリー・コンサートには福井さんのご令嬢に

あたる工藤瑞子さんが聴きにきてくださり、大内さんを通して次のようなメッセージを寄せてくださいました。

「ファミリー・コンサートのご招待状、有難うございました。昨日は、娘と孫と一緒に伺い、たのしい一時をすごさせていただきました。父も隣の席で大きな拍手をお送りしていたように思います。素敵な音楽会をありがとうございました。御礼まで。

3月4日 工藤瑞子」

#### 参考文献

- (1) 川又一英  
麻布中学と江原素六 新潮新書 032 新潮社 2003年
- (2) 北沢 清  
日本陸上界 大先輩との対話—その4— 静かなスプリンター “福井孝一”  
陸上競技マガジン 1971年12月号 108-110
- (3) ニューヨークフィルハーモニックのホームページより
- (4) 米国建築合資会社  
福井孝一氏邸の設計 建築画報 大正13年(1924) 15巻4号  
(国会図書館蔵)

### 鎌響の歩みと将来に向かって

鎌響は2012年に創立50年 Golden Jubilee を迎え KS050 として記念行事を行ってきました。そしてこの記念誌をデジタル版で発行出来る運びとなっています。50年を可能にしたのは創立時に井戸を掘った人々、そしてその意思を引き継いで集団を率いてきた歴代のリーダーたちの賢明な舵取りと団員一人一人の無私の努力によるものです。しかしオーケストラほど運営のむずかしいものはないと言われている団体が長くしかも発展的に存続するにはこれを支える哲学

があり、さらに組織の外にもこれを支持する人々がいなければなりません。私たちは鎌倉という世界的な都市の名前を頂いている名誉と責任を感じて、この際、過去を振り返ると共に創造的な未来を夢みて、実現させて行こうではありませんか。

## 鎌倉湘南をめぐる音楽家たち

鎌倉そして湘南に関係した音楽家、そして現に当地に在住されている音楽家は多くおられます。作曲家にしても枚挙にいとみません。しかしこれらの人々を思いだし顕彰する動きは少ないようです。鎌倉には文学館があり、また多くの文人、美術家ゆかりの記念館があるのですが、不思議なことに音楽家の顕彰についてはほとんど聞いていません。同じ様な島国でともに歴史の古い英国では自国の音楽と作曲家を大切にし、夏のポップスのような国民的なクラシック音楽の行事があり TV では連日放送され、会場ではユニオンジャックを振る人もあって、あたかも紅白歌合戦のような国民的な盛り上がりを見せています。1970年代のある日ロンドンでティペットの交響曲が演奏されたときに会場にいた作曲者に盛大な拍手が贈られたことを覚えています。

鎌響 50 周年を期してあえてこの地に関係した音楽家の生涯を振り返ってこの地とのつながりを再認識し、その生涯を顕彰し作品を演奏することは私どもの責務ではないでしょうか。

## この地を音楽の中心に

鎌響の先人たちは鎌倉文化協会の方々と共に中央公民館の反響板設置運動から文化ホール建設運動を行って、芸術館の完成にいたりました。しかし、今回の記念演奏会でもすでに芸術館の座席数の十分でないことが問題となりました。よい演奏家あるいはオケであれば芸術館が満席になることは皆さまも多く経験されていることでしょう。2000 席規模、オルガン付きでオペラも演奏できる会場がこの地にできて東京に行かなくてもこのような演奏会に参加できるようにしたいものです。ウイークエンドに家から 30 分程度のところでモーツァルトのオペラを観て食事ができるというような環境を夢見ています。そして人類共通の、ひょっとしたら他の生物も理解しているかもしれない音楽という言葉を使ってこの地域、近隣諸国、そして世界さらに宇宙の平和と進歩に貢献できると

信じています。

## アマとプロ

鎌響は今後もアマオケとして続いていくことでしょう。しかし幼少時から音楽を学んだ人口の増加と、時間の余裕ができると共にアマのレベルはますます上がっていくことでしょう。アマとプロではもちろん越え難い差がありますが、プロの先生方のご指導により鎌響のレベルも常に上がって行くはずで、そしてこの地の音楽活動における鎌響の重要性も増して行くことでしょう。

## 鎌倉でのオーケストラ運動と鎌倉交響楽団

### 鎌倉の音楽家たちと第1次鎌倉交響楽団

戦災を免れた鎌倉在住の音楽家たちを中心にして昭和21年(1945年)に結成されたプロ・アマ混成の第一世代の鎌倉交響楽団がありました。その構成メンバーには当時の日本を代表するクラシック音楽家たちが含まれています。指揮は尾高尚忠(当時NHK交響楽団などを指揮し、NHK尾高賞にその名を残す。)、ヴァイオリンに江藤俊哉(その後カーチス音楽院に学びわが国を代表するヴァイオリニストとなる)、橋本國彦(作曲家、ヴァイオリンと指揮)、多野忠興、岩本真理、岩淵龍太郎、桑沢雪子、夏目純一、伊達良、小林武史、現在の鎌響の前団長日比谷平一郎、ヴィオラ河野俊達、松浦君代、小森英正、チェロ斎藤秀雄(桐朋学園の創始者の一人、指揮法教授のパイオニア)、チェリスト堤剛の父上の堤氏、そしてティンパニには鎌倉市歌作曲の矢代秋雄(後にパリ音楽院に学び東京芸大教授。戦後日本を代表する作曲家となるが夭折。)などが加わっていました。尾高尚忠のフルート協奏曲の初版はこの鎌響で世界初演されています。また団員にはアマチュアも含まれており、現鎌響の前団長、日比谷平一郎さんらはこの第一次鎌響の団員でもあり、このような点でも二つの鎌響はつながっていると言えます。



鎌響前団長 日比谷平一郎さん Vn と Vla、後ろは畠中さん Vn と Vla  
日比谷さんは第一次鎌響、朝日ジュニアオーケストラ、現鎌響（初代のコンマス）  
を通して活躍されました。（KSO アーカイブ）

第一次鎌響は鎌倉市内の小学校の講堂などで演奏会を行い、井口基成がベートーヴェン、安川加寿子がモーツァルトのピアノ協奏曲を演奏しています。

このオーケストラのオーナーでインスペクターでもあった藤本譲氏のアシスタント、平井哲三郎氏は「このオーケストラは昭和26年頃で終わりますが、その後鎌倉在住のアマチュアの方々が、あとをついで今日その名がある事は大変嬉しい事です。」と記しています。(1)

第1次鎌響を彩った音楽家たち (Web ページより)

指揮 尾高尚忠



ヴァイオリン 江藤俊哉



ヴァイオリン 指揮 橋本國彦



チェロ 斉藤秀雄

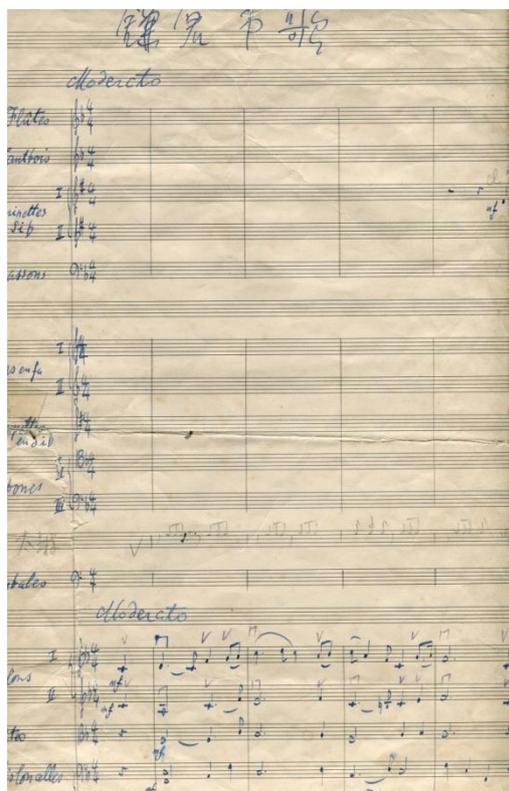
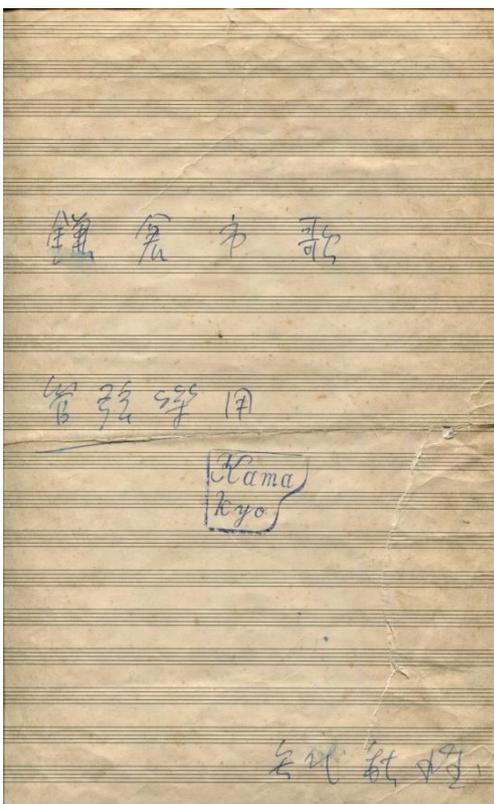


ティンパニ 矢代秋雄



矢代秋雄作曲 鎌倉市歌

自筆総譜 (別にパート譜も) 鎌響 蔵



## 朝日ジュニアオーケストラ

その後しばらく鎌倉に交響楽団はなかったのですが、昭和31年朝日ジュニアオーケストラが開設され、翌昭和32年に開設されたその鎌倉教室の室長に福井孝一さんが就任されました。これは第一次鎌響が昭和26年に活動を終えた後の鎌倉でのオーケストラ活動であり、第一次鎌響以来、現在の鎌響の創設にも連なっています。昭和31年11月18日には朝日新聞東京本部教室による演奏会が開かれ、昭和32年3月17日には関西交響楽団スタジオで大阪本部教室による演奏会が開かれています。

鎌響創立以来の団員であるコントラバスの大内達郎さんなど朝日ジュニアで活躍していた人々を含めて現在の鎌響が創立されるときには、当然福井さんが大きな活躍をされることとなります。福井さんを現在の鎌倉交響楽団の委員長（当時は団長をこう呼んだ）とし、伊澤龍作氏、当時鎌倉市役所に勤められていた服部甚蔵氏、初代指揮者の東清蔵氏らの努力により第1回の定期演奏会開催にこぎつけられました。その後福井さんは鎌倉市の教育委員に就任を依頼されて、関連団体である鎌響の団長を辞任されるまで初期の鎌響に大きな貢献をされています。

鎌響創立時の団員で初代の指揮者の東清蔵氏のご子息である東博之氏は次のように述べています。「昭和32年春に、朝日ジュニアオーケストラ鎌倉教室という子供たちのオーケストラができた。市内のヴァイオリン教室の先生方、市役所の社会教育課、鎌倉音楽クラブなどのメンバー達などが参画し立ち上げた。東清蔵が指揮し、私は助手（譜面台の出し入れなど）として参加。子供には無理なコントラバスやティンパニなどを受け持った。子供たちは小学校中学年から高校生までレベルはばらばらで、曲目といえば朝日の本部から送られてくるやさしい曲ばかりであったが、そこには尾高尚忠の遺児で当時小学校高学年だった惇忠、忠明両氏もヴァイオリンで参加していた。母上の節子氏（ピアニスト）が熱心に二人を連れて来られていた。

子供たちだけではメンバーが足りるわけもなく、音楽好きの大人たちが参加していた。堤剛の父上のコントラバスの張弦は、チェロの張弦をオクターブ低くして演奏していた（チェロは完全5度間隔、バスは完全4度間隔）。またできたての東京文化会館で、モーツァルトのピアノコンチェルト「戴冠式」の第一楽章を演奏した。奏者は山岡秀子先生のお弟子さんだった。残念ながらそれ

から4年程して朝日の都合でジュニアオーケストラは中止となった。残ったメンバーが第2代目の鎌倉交響楽団を立ち上げることになる。」(2)(3)



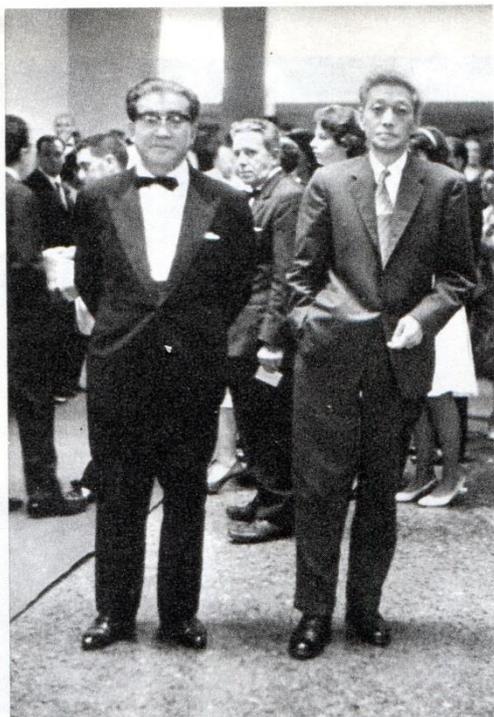
左から東博之さん C1、山本団長 Ob、斎藤昭 鎌倉シティブラス団長

東さんは初代指揮者東清蔵氏のご子息で朝日ジュニアオーケストラから鎌響創設に参画されました。

## 第二次鎌倉交響楽団—現在の鎌響—の誕生

昭和38年(1963年)には鎌倉の在住の方々の「クラシック音楽を鎌倉に、そして広く世の中に」という熱い気持ちから現在の鎌響である第2次鎌倉交響楽団が誕生しました。音楽評論の草分けでロンドンの王立音楽院でピアノを学んだ野村光一氏が発起人となり、団に残された設立趣意書には今日出海、小林秀雄両氏などこの地に住んだ日本を代表する文化人の万年筆によるサインも見られます。当時の鎌響の実際の運営には、戦前に三井物産でニューヨークに滞在され、その地の音楽活動を良く知り朝日ジュニアオーケストラ室長でもあった

福井孝一氏、鎌倉市役所勤務の服部甚蔵氏、そして日本への西洋音楽の導入役となった伊澤修二（1851年-1917年）の甥でチェロ担当、のちに鎌響団長となる元関東特殊精鋼常務取締役の伊澤龍作氏などが大きな働きをしています。またその後伊澤氏をはじめとする鎌響のメンバーが新会館建設のための運動を行い現在の鎌倉芸術館が20年後に完成しました。



昭和38年9月 イタリア・リド島。ヴェニス映画祭審査員の今氏を訪ねる

昭和38年、鎌響誕生の年の左から今日出海氏と小林秀雄氏

（新潮昭和58年4月 小林秀雄追悼記念号より）

1963年6月15日に第1回の第2次鎌倉交響楽団の演奏会が開かれていますが、1963年11月17日の第2回までは中田豊太郎と東清蔵（1975没）が指揮しています。東氏は横須賀海軍軍楽隊の出身で自身もクラリネット奏者でしたが、当時横須賀市にあった栄光学園吹奏楽部の指導などもしていました。

当時の団員で指揮東清蔵氏のご子息、東博之さんはさらに次のように記しています。「指揮は私の父、私はクラリネット。最初はメンバーが足りず大勢のトラ（エキストラ）を頼まなければならなかった。会場は鶴岡八幡宮の一の鳥居の

脇にある市民会館。多目的ホールで反響板もなく舞台の天井が抜けていて、まるで沼の底で演奏しているがごとく響きが良くなく、演奏栄えなどするはずもなかったが観客は満員だった。市民待望のオーケストラができたのだ。」



鎌響を指揮する 東 清蔵 先生 (KSO アーカイブ)

そして今回の100回にいたるまで、毎年二回の定期演奏会が続けて開かれることとなります。第2回の定期には横須賀の米海軍の奏者がホルンを独奏していますが、奇しくも戦争をはさんで両国の海軍の音楽家が平和のうちに指揮と独奏をすることになったわけです。

### 鎌倉交響楽団第1回定期演奏会

1963年6月15日(土)19時

鎌倉市中央公民館

指揮 中田豊太郎

ベートーヴェン 「エグモント」より序曲

指揮 東清蔵

ハイドン ピアノ協奏曲 ニ長調

ピアノ独奏 朽木みどり  
シューベルト 交響曲 第7番(旧第8番) ロ短調「未完成」

### 鎌倉交響楽団第2回定期演奏会

1963年11月17日(日) 14時

鎌倉市中央公民館

指揮 東清蔵

ベートーヴェン 交響曲 第6番 ヘ長調「田園」

モーツァルト ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447

ホルン独奏 リチャード A. ブロット 横須賀米海軍軍人

指揮 中田豊太郎

ヨハンシュトラウス(2世) 皇帝円舞曲 作品437

指揮 東清蔵

リスト ハンガリー狂詩曲 第2番 嬰ハ短調

### 鎌倉交響楽団第3回定期演奏会

1964年5月23日(土) 6時半

鎌倉市中央公民館

指揮 前田幸市郎

ニコライ 序曲 ウィンザーの陽気な女房達

ベートーヴェン 交響曲第5番「運命」

モーツァルト ピアノ協奏曲ニ長調「戴冠式」

ピアノ独奏 朽木みどり

指揮 東清蔵

グノー 舞踊組曲 ファウスト

エルガー 行進曲 威風堂々

1975年5月25日の鎌響25回定期では鎌響生みの親、育ての親東清蔵追悼としてベートーヴェンの英雄を演奏しています。鎌響で東氏の指揮が高く評価されていたことが解ります。創設以来、春と秋、年二回の定期演奏会は連綿と絶えることなく2012年の50周年に至るまで続けられています。

1964年の第3回になると東氏と前田幸市郎氏を指揮者に迎え、64年秋の定期から67年の第10回定期までは64年11月病に倒れた東先生に変わって前田先生が一人で指揮をしています。68年春の定期には高橋誠也を迎え前田と共に指揮を行っています。前田先生は東京音楽学校卒、山形大学教授も務められ宗

教音楽、合唱音楽にも詳しく流れる様な指揮と丁寧なご指導で団員の信頼を得ていました。



御成小音楽室での前田先生。前は桐本さん Vn (KSO アーカイブ)

創立 20 周年記念の第 40 回定期では鎌倉で最初の第九が前田先生指揮で演奏され、第九の演奏は芸術館開館記念、姉妹都市萩での演奏、最近では芸術館主催による日本語の第九と続いています。そして 2012 年末で合計 17 回の第九が鎌響によって演奏されてきました。現在、必ずしもよくない近隣諸国との関係を考えると何か友好を深めることが音楽を通してできるのではないのでしょうか。私自身は 1962 年 12 月、山本直忠先生指揮による名古屋で最初の学生による第九に参加しました。大学のオケの指揮者であり戦時中の弾圧を乗り越えて来られた山本直忠先生は「第九こそ平和の音楽です。」と言われていました。自由学園で子供たち全員に楽器を持たせる教育を行い、ついに第九の演奏会にこぎつけ話をされ、演奏会当日が昭和 16 年 12 月 8 日未明の真珠湾攻撃の日にあたってしまい、プロの歌手が欠席し、全員集まった子供たちと自分でソロを歌って演奏した話をされました。戦後先生は群馬交響楽団の初代指揮者を始め

として各地で平和の音楽を伝えて行かれました。



鎌倉公民館分館仮設舞台での創立 20 周年記念第九練習風景

指揮前田幸市郎先生 (KSO アーカイブ)

その後若手の古谷誠一氏を指揮者に迎えて、前田、古谷の両氏で指揮をしていましたが、前田氏の引退後、古谷氏が指揮者となりました。古谷氏は東京大学文学部卒業後に桐朋学園大学で音楽を学び、鎌響と共に新しいレパートリーを積極的に開拓し現在の鎌響の基礎を作るのに大きく貢献されました。鎌倉芸術館完成記念の第九演奏会や東京駅コンを指揮されたのも古谷先生でした。氏は現在セントラル愛知交響楽団正指揮者などとして活躍されています。



鎌響を指揮する古谷先生 コンマス五味さん 後ろ中央に井上さん Vn

(鎌響アーカイブ)

1980年代、前田先生から古谷先生に移る頃の練習場は主として御成小学校の音楽室や講堂でした。冬はだるまストーブで夏は冷房なしの過酷な条件での練習でしたが団員の音楽に対する情熱が鎌響を支えてきました。そのころ国立音楽大学でヴァイオリンを学ばれた松野美智子さんがコンサートマスターになられて素晴らしい音楽と人柄で鎌響のレベル向上に貢献をされました。またご主人の松野義明さんもチェロを弾かれ、ウイーンの原子力機関に勤務されていた方で、その地の音楽や音楽家をご存知で、団の運営や将来計画に貴重なリーダーシップを発揮されました。現コンサートマスターの五味さんが20代はじめて入団されたのも御成で練習していたころです。五味さんはその才能と努力で年齢や人生経験の違う団員の中にあって鎌響の発展に貢献されています。



左から古谷先生と Vn の中村さん、桐本さん、小原さん、高橋さん



五味さんと当時の Vn 1 のメンバー (いずれも KSO アーカイブ)



御成小の門 1980年代には俳人高濱虚子筆のオリジナルな門札でしたが後に改修されて今はこのような複製になっています。



この御成小の門をくぐって奥の右手にある音楽室が練習場でした。(KS0アーカイブ) 下の御成小学校講堂も使っていました。(講堂写真は津金さん Trp 提供)





88. 9. 13 JR 東京エキコンに出演 (古谷誠一指揮)



古谷先生指揮のとうきょうエキコン 88-9-13 火曜日午後少し雨の降った日  
コンマスは松野さんでした。(いずれも KS0 アーカイブ)

その後、団員の討論で主として若手の指揮者を演奏会毎に招聘しています。鎌響は毎年の幼稚園協会での演奏、鎌倉および姉妹都市萩での3回にわたる第九演奏、そして2012年末で計17回となる第九演奏などでも地域にも大きく貢献しています。また、今回の記念行事最初に行われたファミリーコンサートは鎌倉市の依頼により夏休みに市内の小学校をまわった巡回演奏会に始まっています。鎌響を聴いて多くの若者が音楽の楽しさ気高さを知り、またインスタントコンダクターに出演したことのある人の中にも音楽家として活躍している人も出ています。

初代指揮者東清蔵先生の御子息で鎌響創設期の団員でもある、東博之氏は50周年春の定期に来られ、「最初の音を聴いたときにカルロスクライバーの指揮するウーンフィルかと思いました。よい時代になったものですね。」と述べられています。



左から松木さん Fg、菅井さん Vn、小原さん Vn、小原さん Vla  
KS050 の展示の前で

## 参考文献

- (1) 平井哲三郎 江ノ電より
- (2) 東博之氏のホームページより。
- (3) 服部甚蔵 鎌響の生い立ちから今日まで 鎌響 15 周年記念プログラム



鎌倉交響楽団 第79回定期演奏会 鎌倉芸術館大ホール 2002・5・18 (創立40周年記念第1回演奏会)

40周年記念第一回の定期演奏会 指揮 森口真司 先生

ヴェルディ 歌劇アイーダからの合唱

鎌倉市民混声合唱団 鳳混声合唱団

鎌倉芸術館



40周年の鎌  
響(KSOアー  
カイブ)  
そして30年  
前の入場券  
入場券は宇  
多さん Vn所  
蔵











# KAMAKYO

入場券

## 第33回定期演奏会

●指揮/前田幸市郎

御招待



●1979年5月27日(日)1:30 p.m. (開場) 2:00 p.m. (開演)

●鎌倉市中央公民館

### 曲 目

- 「アルルの女」組曲 第1・第2      ビゼー
- 皇帝円舞曲                              ヨハン・ストラウス
- 交響曲 第5番「運命」ハ短調      ベートーベン

# KAMAKYO

入場券

## 1981年 ニューイヤーコンサート

御招待



●1981年1月24日(土)5:30 p.m. (開場)6:00 p.m. (開演)

●鎌倉市中央公民館